



平成23年度 鹿嶋市立平井中学校 第3学年通信 No.41 平成24年2月8日発行

♪ 進路情報。

先週2日(木)から6日(月)までが茨城県立高校の出願期間で、その結果が昨日午後5時に県教委から公表されました。

高校名	学科	全体定員	志願者数	倍率	±	推薦定員	推薦志願者数	倍率	±
銚田一	普通科	280	319	1.14	+39	70程度	76	1.09	+6
銚田二	総合学科	280	278	0.99	-2	126程度	96	0.76	-30
麻生	普通科	200	200	1.00	±0	50程度	51	1.02	+1
潮来	普通科	120	101	0.84	-19	36以内	8	0.22	-28
	商業科	40	32	0.80	-8	16程度	3	0.19	-13
	人間科学科	40	30	0.75	-10	16程度	4	0.25	-12
鹿島	普通科	240	307	1.28	+67	72以内	79	1.10	+7
	普通科情報実務コース	40	36	0.90	-4	12程度	4	0.33	-8
神栖	普通科	160	165	1.03	+5	32程度	23	0.72	-9
波崎柳川	普通科	160	148	0.93	-12	48以内	32	0.67	-16
	普通科体育コース	40	28	0.70	-12	20以内	9	0.45	-11
鹿島灘	普通科午前部	40	43	1.08	+3	8程度	4	0.50	-4
	普通科午後部	40	42	1.05	+2	8程度	1	0.13	-7
	普通科夜間部	40	7	0.18	-33	8程度	0	0.00	-8

推薦定員を「程度」として格させることもあり得ます。麻生の51人は「50程度」の範囲でしよう。しかし、銚田一の76人が「70程度」の範囲かという疑問です。

表から読み取れるとおり、鹿島高校普通科の進学希望者が、240人しか入れないところに307人の希望ですから異様に多いと言えます。その他にも、白抜きの数字になっているところは、定員より多く集まっているところ。ただし、各高校の学校長の判断で、定員より多く合格させることもあります。その枠は学級数ということになっており、例えば鹿島高校普通科は6クラスで240人の定員ですが、倍率が高く、どこで切るか甲乙つけがたいという場合には、246人まで合格できます。ただし、絶対にそういう措置があるかという、そうではなく、あくまで学校長の判断です。

今週10日(金)は推薦入試が実施されます。その合格内定発表は16日(木)。これで不合格だった人は、改めて一般入試の願書をいずれかの高校、学科に提出することになります。その期間が21日(火)・22日(水)です。

その期間中に、いったん一般入試で出願した人も、一度に限り既に提出してある願書を取り下げ、新たに別の高校(志願変更)や同じ高校の別の学科等(志望変更)に提出し直すことも可能です。そうなると、現在、倍率の高い高校・学科を志望していて、自信のない人が倍率の低いところに移ることが予想されます。したがって、今の時点で倍率の低い所を希望している人も、決して気は抜けません。具体的には、鹿島高校普通科情報実務コースは現在-4ですが、おそらく普通科からの移動があって、オーバーになると予想されます。銚田二高も同様でしょう。

また、志願先変更期間が終わっても、志願者が定員に満たない高校・学科では、全員を合格させるかという、そうとは限りません。たとえ人数がマイナスでも、入試の結果等で、その高校・学科で十分やっていると判断されなければ落とされます。そういう意味でも今の時点で倍率の低い所を希望している人も、決して気は抜けません。

結局、一般入試(3/6)が終わっても合格者が定員に満たなかった高校・学科では、二次募集(3/19)が行われます。二次募集の定員は、全体定員に対する不足人数です。

さて、茨城公立高を一般入試で志願している人は、志願変更・志望変更をするかしないかをよく考えてください。また、推薦入試志願者も推薦不合格の場合を考えましょう。特に三者面談等で「かなりきつい」と言われていた人。そういう人も、鹿島学園などの私立高校の合格通知を手にてきており、公立が不合格でも私立に行くからいい、という場合はそれでいいでしょう。しかし、私立の合格という保険を手にてきていない人、または経済的な事情等で合格通知は手にてきていても、私立には通わせられない、と家の人に言われている人は特によく考えてください。

次回は明日、千葉公立高校の志願状況の発表があるはずですので、そちらについて情報を提供いたします。